

2005年9月13日

(財)2005年日本国際博覧会協会 催事管理室



## 開催概要のご案内

(財)2005年日本国際博覧会協会は、9月24日(土)に長久手会場 EXPOドームにて、グローバル・ハーモニー・コンサート「Symphonic EXPERIENCE of LOVE」を開催いたします。

グローバル・ハーモニー・コンサートは、音楽を通じて世界の人々と多様なコミュニケーションを創造しようという主旨で企画、今までに「世界の祈り(Prayers To The World)」(4月17日・18日)、「ポップスは世界を巡る-Pops Goes Around-オーケストラとポップスで遊ぼう」(6月25日・26日)、「アムール・タカラヅカ～愛は地球を巡る～」(7月13日・14日)という3つのプログラムを実施して参りました。

最終回は、名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏と、国際的な舞台で活躍する指揮者小林研一郎氏を迎えたスペシャルコンサートを実施、地球大交流・思い出の“愛・地球博185日”を音楽とともに駆け巡り、「愛・地球博」のグランド・フィナーレに華を添えます。

開催についての詳細は以下の通りです。

### ■開催概要

[タイトル] グローバル・ハーモニー・コンサート「Symphonic EXPERIENCE of LOVE」

[開催日時] 2005年9月24日(土)

開場：18：30 開催：19：30～21：00

※16：30～18：00は公開リハーサルを実施いたします。

[会場] EXPOドーム

[出演] 指揮・語り 小林 研一郎

ソプラノ 崔 岩光

テノール 市原多朗

[演奏] 名古屋フィルハーモニー交響楽団

[主催] 財団法人2005年日本国際博覧会協会

[協賛] TOYOTA PARTNERS

## ■構成(曲目予定)

### 《1部：オープニング》

1. R.シュトラウス 交響詩「ツァラトウストラはかく語りき」冒頭
- 

### 《2部：ソリストを迎えてオペラ・アリア集》

2. ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」～マーチ  
3. プッチーニ 歌劇「ジャンニススキキ」～わたしのお父さん (崔)  
4. // 歌劇「蝶々夫人」～ある晴れた日に (崔)  
5. // 歌劇「トスカ」～妙なる調和 (市原)  
6. // 歌劇「トスカ」～歌に生き、恋に生き (崔)  
7. // 歌劇「トスカ」～星は光りぬ (市原)
- 

### 《3部：世界の音楽》 音楽は世界を駆ける。『愛・地球博』思い出の185日 (小林研一郎の語り)

8. 管楽器のためのラプソディ～八木節(日本)  
9. アロハ・オエ(太平洋)  
10. アメイジング・グレイス／崔(北米)  
11. ブルー・タンゴ(南米)  
12. エジプト行進曲(アフリカ)  
13. Time to say goodbye／崔、市原  
14. ペールギュント～朝(北欧)  
15. 威風堂々(英国)  
16. オー・ソレ・ミオ／市原(南欧)  
17. 美しき青くドナウ(東欧)・モルダウ(東欧)  
18. 歌劇「椿姫」～乾杯の歌／崔、市原
- 

### 《4部フィナーレ》

ラヴェル ボレロ

---

小林研一郎 万博成功と感謝のファンファーレ

《アンコール》 地球大交流(崔、市原、小林、会場全員で)

『愛・地球博』テーマソング I will be your love.

---

※曲目は変更することがあります。

## ■出演者プロフィール

### 【総合監修・指揮】



小林 研一郎

名古屋フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者

東京芸術大学作曲科・指揮科の両科を卒業。

作曲を石桁眞礼生、指揮を渡邊暁雄、山田一雄の各氏に師事。

1974年第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。プラハの春、アテネ、ルツェルン・フェスティヴァルなど、多くの音楽祭に出演。

また、ヨーロッパの一流オーケストラを多数指揮。ハンガリー国立交響楽団およびネザーランド・フィルのヨーロッパ・日本公演や、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルのヨーロッパ公演の指揮者、国際指揮者コンクール審査員、東京都交響楽団、東京交響楽団正指揮者、名古屋フィル、京都市交響楽団、ハンガリー国立交響楽団音楽総監督・常任指揮者などを歴任。

これまでに日本のほとんどのオーケストラで、定期演奏会を指揮。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章(民間人としては最高の勲章)を授与される。

現在、ハンガリー国立フィル桂冠指揮者、名古屋フィル桂冠指揮者、日本フィル音楽監督、チェコ・フィル常任客演指揮者、ネザーランド・フィル、九州交響楽団の首席客演指揮者、東京芸術大学教授、東京音楽大学客員教授。ポニーキャニオン、オクタヴィア・レコードの両社から30数種類のCDが発売されている。著書にエッセイ集『指揮者の ひとりごと』。

2000年の日蘭交流400周年の作曲を委嘱され、両国をモチーフにした管弦楽曲「パッサカリア」を作曲。ネザーランド・フィルの演奏で初演され、4日間にわたり満員の聴衆の熱狂的スタンディング・オベーションで迎えられた。

2002年5月のプラハの春音楽祭オープニングに、東洋人として初めてチェコ・フィルを指揮して登場、大統領臨席のもと、『わが祖国』全曲が演奏され、コンサートの模様は全世界に向け同時放送された。

## 【ソリスト／ソプラノ】

サイ・イエングアン(崔 岩光)



中国大連出身。

15歳にして北京空軍歌舞団に入団。コロラトゥーラ・ソプラノ(最も高いソプラノ)としてデビュー。

1977年 全軍音楽祭で優秀賞を獲得する。

1984年 中国音楽学院歌劇科を修了し、中国中央歌劇院ソリストとなる。

1989年 東京で上演された日中合作オペラ「魔笛」に夜の女王役で出演。以後この役は最高のはまり役として、故團伊玖磨、小沢征爾、小林研一郎、大野和士の指揮者によっても世界的に高く評価されている。

1992年 東京芸術大学の平山郁夫前学長から招聘を受ける。

1997年 小沢征爾指揮による新日本フィルハーモニー交響楽団の「魔笛」に出演、イタリア・カナダ・ブルガリアでの公演と国際的に活躍する。

1998年 新国立劇場開場記念の大野和士指揮による「魔笛」に出演。世界的演出家ミハヤエル・ハンベ氏より絶賛される。また、第4回AFCダイナスティカップ(主催アジアサッカー連盟・日本サッカー協会)が横浜国立競技場、東京代々木国立競技場において開催され、その会場で中国・香港の国歌を歌う等大きな話題となった。

2000年 新国立劇場「魔笛」に再演。

2001年 アメリカ・サンディエゴ歌劇場オペラ「魔笛」に夜の女王で出演。

2002年 南米チリ歌劇場オペラ「魔笛」、北京での團伊玖磨オペラ「ちゃんちき」に出演。

2003年 新国立劇場「ラ・ボエーム」、フィンランドにてオペラ「トゥーランガリラ」に出演。

2004年 NHK「森と水と大地」コンサート、文化庁主催「アジアのスーパーガラコンサート」、12月には小林研一郎指揮により日本フィルの「第九」公演に出演。

2005年 12月にはギリシャ国立劇場オープン記念オペラ「魔笛」に出演予定。

2006年 アメリカ・ダラスオペラ「魔笛」にも出演が決定している。

その透明感溢れるさわやかで美しい歌声は、世界中の著名指揮者や演出家から高い評価を得ており、世界的なアーティストとして活動の場を広げ活躍している。

## 【ソリスト／テノール】



### 市原 多朗

1979 年第 8 回毎日音楽コンクール第 1 位  
第 15 回日伊声楽コンクール第 1 位  
第 21 回ヴェルディ国際コンクール第 2 位  
第 19 回フランススコヴィニャス国際コンクール第 1 位

山形県酒田市出身。

東京芸術大学、同大学院修了。

加藤千恵、金内馨子、渡辺高之助の諸氏に師事。

1979 年第 8 回毎日音楽コンクール(現日本音楽コンクール)第 1 位。第 15 回日伊声楽コンクール第 1 位。

「第九」「メサイア」など宗教曲のソリストとして活躍の後、1980 年二期会公演「ウェルテル」でタイトルロールを歌いオペラ・デビュー。

1981 年渡欧し、ローマのサンタ・チェチーリア音楽院でジョルジュ・ファヴァレット氏に師事。

同年、第 21 回ヴェルディ国際コンクール第 2 位(1 位なし)と AMAL 賞、第 19 回フランススコヴィニャス国際コンクール第 1 位大賞、あわせて最優秀テノール賞とヴェルディ賞を受賞。

1982 年リスボンのサン・カルロス歌劇場で、「トゥーランドット」のカラフを歌い、海外オペラ・デビュー。

1984 年、ザルツブルク音楽祭に日本人歌手として初出演を果たし、ヴェルディの「マクベス」(マルコム役)を歌う。またパリ・オペラ座にも「マクベス」で日本人男性歌手として初登場。

1984～1985 年シーズンには、パリ・オペラ座史上で、1 シーズンの主役テノール歌手最多出場記録となる。以降、アメリカでは、メトロポリタン歌劇場(「仮面舞踏会」「リゴレット」「ルチア」「トスカ」「ばらの騎士」で 7 シーズン連続主役を務める。)、シカゴ・リリックオペラ他、イタリアでは、ミラノ・スカラ座を始め、ナポリ・サンカルロ劇場、トリノ王立歌劇場、ボローニャ歌劇場、ドイツのハンブルク国立歌劇場、ケルン歌劇場、フランスのリヨン歌劇場、ニース・オペラ座、オランジュ夏の音楽祭、アルゼンチンのテアトロ・コロロン等、世界各地の歌劇場や音楽祭に招かれて歌っている。

あわせて日本国内でも、藤原歌劇団「仮面舞踏会」(1986 年)で国際デビュー後の凱旋公演を飾って以来、同歌劇団の数々のオペラ公演はじめ、新国立劇場主催公演、ハンブルク国立歌劇場来日公演、主要オーケストラの定期演奏会、リサイタルなど、数多くのオペラ、コンサートに招かれている。

2003 年、NHK 国際音楽祭 シャイー指揮 ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団、合唱団とのヴェルディ「レクイエム」のソリストとして絶賛を博した。

1987 年芸術選奨文部大臣賞新人賞、ジローオペラ大賞、1990 年酒田市特別功労表彰。

ショルティ、シャイー、メータ、マゼールなどの著名指揮者とも共演し、正統派ベル・カントの圧倒的な美声と表現力で、まさに世界を舞台に活躍している。

【演奏】 名古屋フィルハーモニー交響楽団 NAGOYA PHILHARMONIC ORCESTRA



1966年7月に結成。1973年4月、名古屋市の出捐により財団法人となる。

現在の指揮者は、沼尻竜典(常任指揮者)、小林研一郎(桂冠指揮者)、モーシェ・アツモン(名誉指揮者)、ボブ佐久間(ポップスオーケストラ・ミュージックディレクター)。

歴代の指揮者は、岩城宏之(音楽総監督 1971～74年)、福村芳一(常任指揮者 1971～74年)、森正(音楽総監督 1974～80年)、荒谷俊治(常任指揮者 1974～80年)、外山雄三(音楽総監督兼常任指揮者 1981～87年)、モーシェ・アツモン(常任指揮者 1987～93年)、飯守泰次郎(常任指揮者 1993～98年)、小林研一郎(音楽監督 1998～2003年)。

1995年から〈名フィル・ポップスオーケストラ〉を発足させ、ユニークな活動を展開。

2002年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターであるライナー・ホーネックが首席客演コンサートマスターに就任。2004年4月にはウィーン国立歌劇場総監督のイオアン・ホーレンダーが芸術アドバイザーに就任。

1988年に初の海外公演としてヨーロッパ・ツアー(フランス、スイス 広上淳一指揮)を、2000年には2度目の海外公演となるアジア・ツアー(ブルネイ、シンガポール、フィリピン、韓国、マレーシア、ベトナム、タイ、台湾 本名徹次指揮)を成功させる。

2004年5月、「プラハの春」国際音楽祭に正式招待され、3度目となる海外公演となるヨーロッパ・ツアー(ドイツ、オーストリア、チェコ 沼尻竜典、武藤英明、トマーシュ・ハヌス指揮)を実施、大成功を収める。

現在は、愛知県芸術劇場コンサートホール、名古屋市民会館大ホールを主会場に、年間約115回の演奏会を実施している。